
Coda

梓哉 詩

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C o d a

【Nコード】

N 2 9 5 9 K

【作者名】

梓哉 詩

【あらすじ】

主人公の流転 魑と碧の出会い。

魑は不覚にも碧に心を奪われてしまった。

1・流転 魍

私が彼に会ったのは桜のきれいな春。

彼は桜の木の下で気持ち良さそうに寝ていた。

その無垢な姿を見て、手の届かない世界の人なんだと思い知らされたがそんなこと気にしない。

手の届かない存在なら壊してしまえばいい。

でも、実際は諦めるだけ。

いつものように。

10年前当時、推定5歳だった私はコードを当主が担うという流転家に引き取られた。

寿命が長すぎると退屈になる。

だから、退屈に殺される前に死んでしまいたい。

私たちが人とは違って寿命が長いのは罪の証。

私たち、リメンバーは禁忌を犯した罪人。

リメンバーという名前は『その罪を覚えている』という意味から来ている。

うーんとのびをして彼は起きた。

それから私のほうを見て言った。

「君は？」

私はその時の彼の顔を見て、ばかそうだと思った。

なにかが抜けているような顔をしていたからだ。

「他人に名前をたずねるときは自分の名前を先に言うのが通りでしょう？」

私はそんな決まり文句を言った。

すると彼は力無く笑って名前を言った。

彼の名前は間弥 碧。

彼が、碧が名を告げたので私も言うことにした。

「流転 魑」

るてん すだま 笑いたきや笑えと諦めてしまうような変わった名前だ。

苗字は5歳から流転になったわけだから前は違う名前だったはずだが、私は覚えていない。

私は5歳以前の記憶が欠落しているのだ。でも、魑という名前だけは覚えていた。

それに漢字が難しいというのが私の悩み。

「おもしろい名前だね。」

碧が言った。

要するに変ていう意味でしょと私は思ったが碧は名前の意味を説明していった。

「流転が輪廻つていう意味だから、巡るつていう意味でしょ。」

それに、魑は精霊の意味。

本当におもしろい名前だね。」

ここでいう碧のおもしろいは皮肉ではない感じがした。

不思議と私はそう思った。

1・流転 魍（後書き）

読まれた方は感想をください。

2・死を求む少女

18歳くらいの少女が高い建物の上にいた。
その少女は手摺りの外に足を出す。
手摺りを掴んでいた手を離す。
身を投げる。

「待ちなさい。」

その時、少女の手を誰かが掴んだ。
そのまま少女の身体を手摺りの内に戻した。
そして少女にたずねた。

「貴女はリメンバーね。」

少女は焦点も合っていないような目で魍を見た。

「あなたは？」

「私はコーダ。」

聞いたことくらいはあるでしょう？」

魍は少女に言った。

「じゃあ、あなたは流転家当主なの？」

少女のその質問には答えなかった。

「コーダの仕事は生きる意志のない、または人間の秩序から外れた
リメンバーを殺すことです。」

貴女に問います。

貴女に生きる意志はありますか？」

魍は聞く。

「生きる意志なんて・・・もう・・・ない・・・」

少女が答えると

「承知致しました。」

と言って魍は鎌を掲げた。

リメンバーにしか見えない鎌。

その鎌で殺す。

鎌を振りかざす、一振り。

少女の胸を貫く。

少しずつ消えていく少女に魑は言う。

「安らかに。」

それが魑、コードの仕事。

2・死を求む少女（後書き）

読まれた方は感想をください。

3・秩序から外れた少女

少女は笑っている。
ずっと笑っている。

声を高らかに上げて。

赤を散らせて。

「まだ足りない。」

少女は笑いながら言う。

「何が足りないの？」

魍は言った。

突然声が聞こえたので驚いたが少女は魍を見つけると走ってきた。
その手にはナイフ。

魍は少女を避け、手を掴みナイフを奪い取った。

「貴女は殺人鬼。それに間違いはない。」

貴女は人の秩序から外れました。

よって貴女を始末します。」

魍は鎌を掲げ一振り、一撃目は避けられたが魍のほうが早かった。
少女の逃れた先にはすでに魍がいた。

魍は鎌を振り下ろす。

その鎌は少女の頭に直撃。

「貴女への罰です。」

受け取りなさい。」

3 ・秩序から外れた少女（後書き）

読まれた方は感想ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2959k/>

Coda

2010年10月8日12時46分発行